

木の文化を支える森づくり「平泉古事の森」を設置 ～東北では初の設置～

林野庁では、国内の神社、仏閣、城郭、旧家などの歴史的木造建造物の修復に必要な樹齢200年から400年の大径木を育てる超長期の森づくりを通じて、地域の皆さんと日本の木の文化を支えていく活動を進める「古事の森」を展開しております。

この古事の森は、作家である立松和平氏の提唱により林野庁が平成14年から全国で展開しているもので、平泉古事の森が10箇所目（東北では初）の設置となりました。

平泉古事の森は、奥州藤原氏三代ゆかりの寺としても有名な中尊寺や毛越寺などの修復材等の供給を行う森づくりとして、岩手南部森林管理署管内月山国有林内を選定、3月に古事の森育成協議会を結成し準備を進めてきたもので、9月26日（土）関係者や地元平泉町及び奥州市衣川区の小学4年生総勢約200人が参加し、平泉古事の森設定のための植樹及び協定書締結式、提唱者である立松和平氏による講演が行われました。



中尊寺金色堂



関係者及び地元小学生が見守る中の締結式

それぞれ今後の協力について述べられました。その後植樹会場へ移動し、古久保東北森林管理局長から「苗木を植えるとともに、文化財を大切にすゝる気持ちを育てて欲しい」と挨拶があり、森林管理署職員による植樹指導の後、町内の歴史的建造物に多く用いられているヒバやケヤキの苗木250本を植樹、古事の森の提唱者である立松氏も参加し、小学生へ植樹指導を行いなが

協定書締結式では、地元の関係機関・団体で組織する古事の森育成協議会会長である高橋一男平泉町長と岩下秀美岩手南部森林管理署長が超長期の森づくりに向け、植樹や保育等の活動についての協定書に調印しました。高橋町長は「この協定書調印がスタートであり、地域全体で木の文化を守る活動を行っていききたい」と挨拶、岩下署長は「皆さんと協力をしながら歴史的建造物の維持に必要な森づくりに努めたい」と



古事の森育成協議会と岩手南部森林管理署による調印

ら一緒に丁寧に植え、植樹後参加した小学校4校の各代表者による「古事の森宣言」が行われ、植樹会が終了しました。参加した小学生達は、「将来植えた木が金色堂などに役に立ったらいいなと思いながら植えました」「ここが虫や鳥たちが集まる森になって欲しい」など話していました。



植樹会場で挨拶する古久保局長

午後からは、古事の森の提唱者である立松氏による「古事の森をつくろう」と題した講演がありました。立松氏は「日本各地には木の文化の象徴とも言うべき木造文化財等の歴史的建造物や伝統工芸など次世代に引き継ぐべき伝統文化

が多く残っており、それらを将来にわたり維持・継承していくため定期的な修復に必要な資材を安定的に供給する必要

があると思います、林野庁へ相談し実現することが出来た、記念すべき10箇所目が東北初となるここ平泉になり嬉しく思う、未来を担う子供たちに植樹体験を通じ文化財との結びつきが出来たうえで、平泉古事の森をこれからは地元の人達が守り育てる活動を続けて欲しい」と話されました。



立松氏による講演

今回古事の森を開催した平泉は、9月25日に開催された世界遺産条約関係省庁連絡会議において、2011年の世界遺産登録の候補に推薦することが決まったこともあり、木造文化を継承する気運の高まりも感じました。



地元小学生による植樹、提唱者である立松氏も参加



講演へも多くの地元住民等が参加

古事の森宣言

- ① 私たちの住む平泉には、お寺や神社など、古くて大きな木造の建物がたくさんあります。このような建物を未来に残していくことは、日本の文化を守り伝えるうえで、とても大切なことだと思います。
- ② けれども、きちんと建物を残していくためには、ときどき修理をしなければならず、これには、とても大きな木材が必要です。
- ③ 今日、私たちが植えた木が、将来、りっぱに役立つよう、みんなで大切に育てていきましょう。
- ④ そして、森の恵みが、わたしたち日本の文化を育ててくれたということを忘れないようにしましょう。